

日 時 平成20年7月13日 午後0時40分 キックオフ (快晴)
会 場 生目の杜総合グラウンド 天然芝
相 手 カントリーボーイズ
結 果 2-0 (1-0、1-0)
得点者 黒田2 (アシスト: 谷口、大介)
内 容 『MVPは誰の手に、?』

今回はリーグ第4戦。年齢層の高いフェニックスにとっては、相手よりまず「猛暑」が最大の敵であった。今節の相手はカントリーボーイズ (以下、カントリー)。年齢層は30歳手前が中心で、1部リーグの中堅といったところ。ずば抜けた選手はいないが、個人技がしっかりしており、難しい相手であることは間違いない。しかし、相手のメンバー表を見ると11人ちょうどになっており、フェニックスには有利な条件であった。

一方フェニックスのメンバーは15人。不動のセンターバック、サイボーグ三井を欠くものの、交代のタイミングがうまくいけば、勝機はありそうな無さそうな感じであった。

作戦は、不在の日高コーチより前日にメールにて指示があり「①当日朝の水分補給、②アップを少なめにして体力を温存する、③梅干しを食べる」であった。戦術面の指示は無し。要は、暑さに負けずいつも通りやればなんとかなるはず、という感じであった。

というわけで、猛暑の中試合開始。序盤はカントリーやや有利の展開。さすがに1部の常連らしく、パスをしっかりと繋いだ攻撃を中心に、サイドからの突破を狙って来た。一方県庁は、ここ最近取り組んでいるDFラインを高く保ち、DFは粘り強く対応した。

と、前半12分、右サイドのHT児玉から中央へのグラウンダーのパスを、いつの間にか攻撃参加していたCB谷口が、相手DFラインの裏へヒールパス。このボールに、エース黒田が反応し、キーパーと1対1になりゴール右隅に先制点を突き刺した!これで1-0。

その後は、ここ数試合で見られるように、先制してからのフェニックスは驚異の力を発揮する。地力に勝るカントリーに押され、フェニックスDF陣の高いラインの裏を2列目からの飛び出しで徹底的に狙われるも、DF陣の的確なラインコントロールと「偶然」も重なり、オフサイドを取り、なかなか相手の思うようにはさせない。パスを繋いでこられても、最後の最後に相手に自由にプレーさせず、1-0のまま前半終了。

前半は、ワンチャンスをものにしたものの、他に目立ったチャンスが作れず、なんとか相手攻撃を防いだとう感じであった。

後半フェニックスは、中園、越智、大介を投入し、できれば追加点欲しいな、という感じで、リフレッシュ大作戦に出た。と、開始間もない後半2分、後半からDFに回った藤田からのボールが前線でごちゃごちゃとなり、最後は大介が絶妙のスルーパス。このボールに、大エース黒田が反応し、貴重な追加点となる2点目をゲット!これで2-0。以降は、藤山を投入し、チームの平均年齢と経験値をアップさせ中盤では互角に戦うも、決定機の数に圧倒的にカントリーが勝ったが、谷之木大明神が神懸かり的なセーブを連発し、このままタイムアップ。2試合連続しての0封で、貴重な勝ち点3を手にした。

今回の試合は、2-0という結果ほど楽な試合ではありませんでした。特に後半は、思考錯誤中のDFラインの綻びを突かれ、何度も決定機を作られてしまいました。

また、数回あったペナルティエリア内でのDF陣のファウル気味のプレーがもしPKを取られていたら、結果は逆だったかもしれません。

今回は、エース黒田の決定力と、相手もうんざりするGK谷之木のスーパーセーブに助けられた感があります。しかし、試合を通じて若者を相手に全員が走り負けなかったことも、勝利の大きな要因と思われれます。あと、梅干しくんの功績も忘れてはいけません。というわけで、今回の試合のMVPは梅干しくんに決定しました！

【お詫び】

本レポートは、試合後の夜（現在23:20）に作成しているのですが、昼の猛暑と焼酎のせいで、2点目が入って以降は多少手抜きになってます。ご了承下さい！

あと、前の試合の主審を日浦さんが務めました。倒れないか心配でした。が、オヤジギャグを封印し、真面目にされてました。

参加者

<先発>

FW（黒田、戸田）

MF（藤田、赤野、渡部、児玉）

DF（工藤、久保野、谷口、久保）

GK（谷之木）

<交代>

DF（中園） 後半（久保に代わって出場）

MF（越智） 後半（工藤に代わって出場）

FW（渡邊） 後半（戸田に代わって出場）

MF（藤山） 後半15分（児玉に代わって出場）

監督 高妻

審判 日浦（主審）、赤野・渡邊（副審）